

平成26年3月
北見市（北海道）

○計画期間:平成23年3月～平成28年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成25年度終了時点(平成26年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成23年3月に本計画の内閣総理大臣の認定を受け、「オホーツク圏の中核都市にふさわしい経済・文化・医療・商業の集約によるコンパクトなまちづくり」を基本理念に掲げ、駅前周辺エリア（複合交通・地域交流拠点）、北見赤十字病院周辺エリア（高度医療・災害時支援拠点）、中央大通沿エリア（骨格軸）を2拠点1軸として、各エリアの機能強化に取り組んでいる。

本計画では、「交流人口の拡大」、「居住人口の拡大」を目標に、北見市や北見商工会議所、北見市商店街振興組合等を中心に41事業を推進しており、これまで35事業を実施（着手）した。そのうち、「借上市営住宅整備事業」や「北見に泊ろうキャンペーン事業」等、計8事業が完了し、具体的な事業効果の発現はこれからであるが、中心市街地の居住人口は増加傾向にあり、今後、中心市街地における消費の拡大に寄与することが期待されている。

しかし、現状においては、中心商店街による四季を通じたお祭りや売出し等が実施されているものの、厳しい経済状況等により客足は減少傾向にあり、週末歩行者通行量は、依然として低水準にある。こうした中、空き店舗を有効活用し、行政、大学、企業等と連携した地域コミュニティ事業や商店街アーケード等の照明光源のLED化といった環境整備に取り組み、まちなかの賑わい創出に努めている。

今後は、駅前周辺エリアのさらなる機能強化等に取り組み、それを呼び水に1軸を中心に民間投資が活性化されるよう、各事業に取り組んでいく。

2. 平成25年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

「居住人口の拡大」では、借上市営住宅整備事業が完了し中心街の居住人口は増加しているものの賑わい創出（歩行者通行量）の増加には至っておらず、新たな視点に立ったコミュニティ再生事業など再検討が必要と考えられる。

また、従来から開催しているおまつりや子供を対象としたイベントや空き店舗を活用した事業の継続、地域コミュニティ事業を実施することにより商店街関係者からも「来街に寄与している」との声もいただいているが、特に中心部における商業振興においては、これまでの進捗経過を踏まえ、市・商工会議所・商店街等各関係機関が連携し、事業の推進役を担うワーキンググループ等の設置を検討いただきたい。更に各事業の進捗状況について定期的に当協議会に対し報告を行い、事業の見直しやフォローアップの必

要性など随時検証する事が肝要である。

なお、現在進められている北見赤十字病院周辺エリア並びに市立中央図書館・市庁舎に係る駅周辺エリアが完成・早期に整備されることにより更なる賑わい創出（歩行者通行量）の増加に繋がり、併せて民間投資による中央大通り沿道1軸の活性化が今後の計画推進の重要な課題であり事業を早期に実施していく事が必要であると考えます。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
都市機能の充実によるにぎわい創出	週末歩行者通行量	7,573	7,800	6,539	—	③
居住環境の整備等によるまちなか居住の促進	居住人口	4,422	4,500	4,580	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「週末歩行者通行量」については、5調査地点の合計は6,539人で基準年との比較では、1,034人の減少となり、14%下回っている。

今後、北見赤十字病院や市立中央図書館の完成が控えており、さらには全市に広がる豊富な観光資源を求めて本市を訪れる観光客は年々増加していることから、ソフト事業を中心に商業機能の魅力向上を図り、多くの市民や観光客を中心市街地に呼び込むことにより、目標達成は可能と見込まれる。

「居住人口」については、北見市まちなか居住推進計画に基づき、中心市街地において民間事業者の活力を活用した借上市営住宅の完成等により、居住人口増加の効果が現れており、目標達成は可能であると見込まれる。

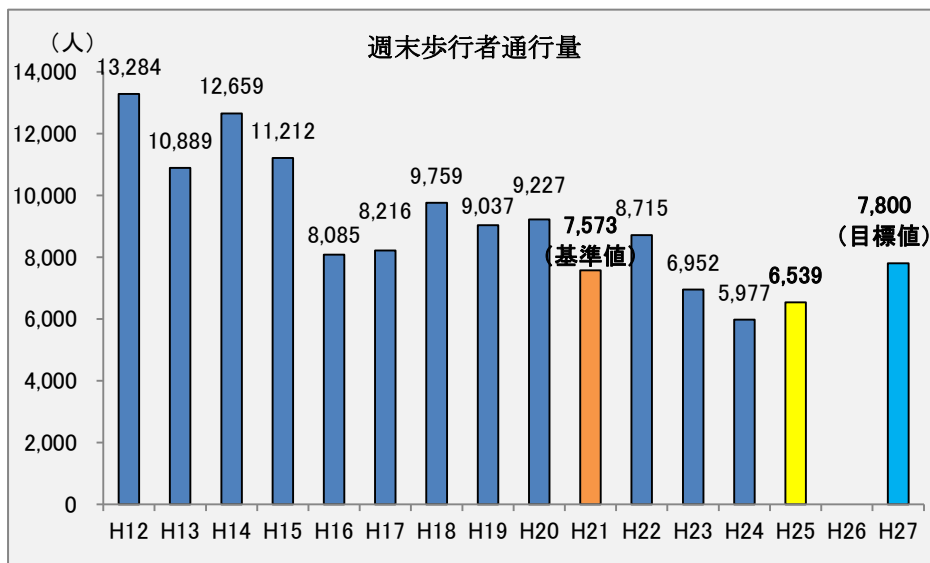
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「週末歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画P53～P59参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H21	7,573 (基準値)
H22	8,715
H23	6,952
H24	5,977
H25	6,539
H26	
H27	7,800 (目標値)

※調査方法：週末歩行者通行量（毎年10月実施）

※調査月：平成25年10月実施 12月取りまとめ

※調査主体：北見商工会議所

※調査対象：中心市街地来訪者（調査ポイント＝中心市街地の5箇所）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立中央図書館整備事業（北見市）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	市立中央図書館の老朽化・狭隘化に伴い、公共交通機関等の利便性が高く、まちなかの賑わい創出が期待できる中心市街地に当施設の移転整備を行う。
事業効果及び進捗状況	市立中央図書館は、1日あたり476人の利用が見込まれており、中心市街地における市民の憩いのオアシスとして、駅周辺の集客力及び回遊性の向上が期待される。 平成26年3月 建物本体工事着手 平成27年4月 駐車場等工事着手予定 平成27年8月 全工事完成予定

②. 借上市営住宅整備事業（北見市）

事業完了時期	平成24年度【済】
事業概要	民間事業者が中心市街地に整備した集合住宅を市営住宅として借上げ、まちなかへの居住を推進した。
事業効果及び進捗状況	平成24年度に借上市営住宅整備事業が完了し、52戸（109人）の市営住宅を供給したことにより、中心市街地の居住人口が増加し、低未利用地の有効活用や老朽建物の更新を図るとと

もに、周辺地区の賑わいに寄与した。

③. 北見赤十字病院整備事業（北見赤十字病院）

事業完了時期	平成 27 年度【未】
事業概要	オホーツク圏の高次医療を担う中核病院として、市民のみならず市外からも多くの患者を受け入れることができるよう、施設の拡張と一部建替えを行い、高度医療の充実を図る。
事業効果及び進捗状況	新館の開館は、全国的な作業員不足の影響を受け、当初予定より 3 カ月遅れの平成 26 年 12 月となる予定である。 開館後は、1 日あたり 25 人の来院患者の増加が見込まれるほか、新たに設置される講習・研修活用スペースの利用による来院等により、周辺地区の賑わいの向上が期待される。

④. 中心市街地活性化施設「まちきた大通ビル」整備事業（北見市）

事業完了時期	平成 26 年度【未】
事業概要	まちきた大通ビルは、合併後の新北見市の中心市街地の中核をなし、行政機能、商業施設、バスターミナルの 3 つの機能をあわせもつ複合施設として平成 20 年にオープンした。市民の賑わいの場として、市民交流広場を設置し、市民が自由に憩える集客施設として環境整備を行う。
事業効果及び進捗状況	中心市街地活性化施設であるまちきた大通ビルの整備は、平成 23 年度より基本設計等実施していたが、現計画を進めるうえでの課題について検証作業を行ってきたところ、行政機能と商業機能が共存する現計画をこのまま進めることは難しいことから、平成 25 年 1 月に、新たな複合交通・地域交流拠点の方向性が示された。このことにより、今後まちきた大通ビルには、中心市街地の賑わい創出のため、商業機能に加え交流機能の強化を検討している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

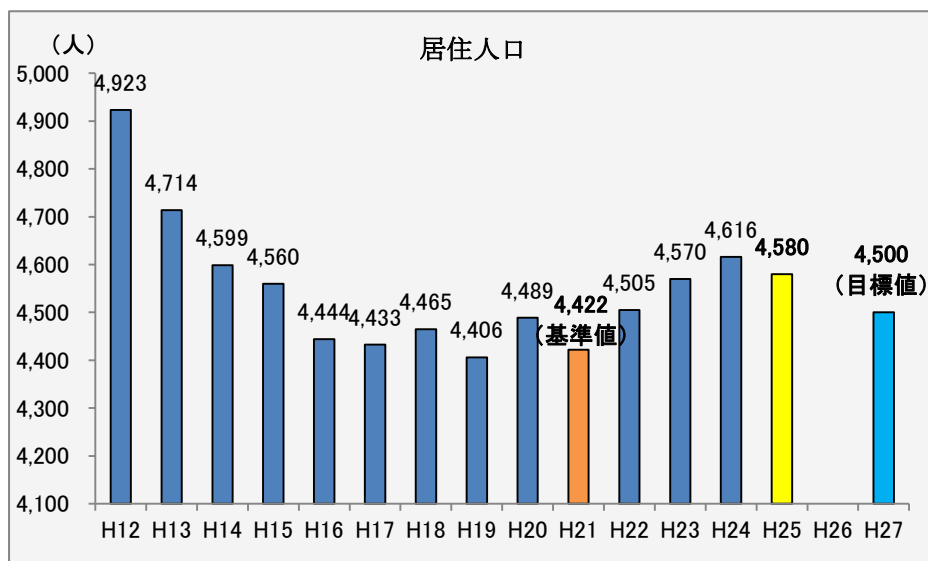
平成 25 年度の週末歩行者通行量は、まちなか居住者の増加や通年を通じた地場製品の販売イベント、商店街の情報発信等による集客効果が徐々に始まっており、前年より 562 人の増加となった。

しかしながら、基準値よりも低水準を推移しており、目標値を達成していない。今後、実施が遅れているソフト事業の取り組みを加速させるとともに、実施中の事業についても効果を検証し適宜改善を図る必要がある。市立中央図書館や北見赤十字病院等のオープンによる市内外からの集客効果を中心商店街にも波及させるため、イベント事業や空き店舗対策事業等、商業機能の魅力向上を図り、目標達成に向け、まちなかの賑わいを創出する。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P60～P63 参照

●調査結果の推移



※調査方法：中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

※調査月：毎年10月末

※調査主体：北見市

※調査対象：中心市街地区域内居住者

年	(単位)
H21	4,422 (基準値)
H22	4,505
H23	4,570
H24	4,616
H25	4,580
H26	
H27	4,500 (目標値)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 借上市営住宅整備事業（北見市）（再掲）

事業完了時期	平成24年度【済】
事業概要	民間事業者が中心市街地に整備した集合住宅を市営住宅として借上げ、まちなかへの居住を推進した。
事業効果及び進捗状況	平成24年度に借上市営住宅整備事業が完了し、52戸（109人）の市営住宅を供給したことにより、中心市街地の居住人口が増加し、低未利用地の有効活用や老朽建物の更新を図るとともに、周辺地区の賑わいに寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

北見市まちなか居住推進計画により、平成20年から平成24年に借上市営住宅整備事業で中心市街地に3棟（142戸）を供給したことで居住人口が増加しており、目標は達成している。

また、1戸建て新築棟数も基本計画が認定後は14棟建設され、概ね目標通りとなっており、北見赤十字病院及び市立中央図書館整備事業も進んでいることから、今後も目標達成は可能であると見込まれる。